

授 業 科 目 名	幼児と健康	教 員 名	城戸 佐智子	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
授 業 形 態	演習	配当年次		卒 業 要 件	こども音楽療育士	選択
科 目 番 号	FOI104				小幼コース	選択必修
単 位 数	1 単位				幼保コース	必修
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	・領域に関する専門的事項					
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の内容・方法の理解					
一 般 目 標	領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。 (1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解し、説明することができる。 (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明することができる。 (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明することができる。 (4) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明することができる。					
到 達 目 標	(1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解し、説明することができる。 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明することができる。 1) 乳幼児の身体発達の発達の特徴を説明できる。 2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明することができる。 1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解できる。 3) 危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。 (4) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明することができる。 1) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。 2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。 3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。					
授 業 の 概 要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の健康に関する現状、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等について学び理解するとともに、発達に合わせた援助の必要性について理解する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：現代の乳幼児の健康に関する現状と課題 WHOによる健康の定義と現代の乳幼児の生活や健康に関する現状や問題を学び、理解する。 その上で、子どもの健康を保障するために、必要な援助を考える。（目標(1)-1), 2)） 第2回：乳幼児の発育・発達 乳幼児の心身の発育・発達の特徴、身体諸機能の発達について理解する。（目標(2)-1)） 第3回：基本的生活習慣の理解と形成 子どもの発達を見るうえで重要となる基本的生活習慣の形成について理解し、自立に向けての援助について考える。（目標(2)-2)）					

	第4回：幼児の運動発達① 乳幼児期に運動遊びを行う意義と効果を学び、その重要性を理解する。(目標(4)-1), (4)-2), (4)-3)) 第5回：幼児の運動発達② 年齢ごとの運動発達段階を理解し、各年齢で行う望ましい運動遊びの援助について考えて、グループで意見交換する。(目標(4)-1), (4)-2), (4)-3)) 第6回：幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 幼児期に起こりやすい怪我や事故の特徴を学び、理解する。また、感染症などの病気の予防について理解する。(目標(3)-2)) 第7回：安全管理・安全教育の必要性 幼児に対する安全管理と安全教育の基本的な考え方を理解する。危険に関し、リスクとハザードの違いを理解する。(目標(3)-1), (3)-3)) 第8回：幼児の生活と健康 幼児が一日の生活全体を見通して生活し、自ら健康で安全な生活を作り出す力を培うために必要な援助を考える。(目標(1)-1), (1)-2), (2)-2), (3)-2), (4)-2)) 期末試験
学 生 に 対 す る 評 価	期末試験70%、レポート提出30%で評価し、60%以上を合格とする。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授 業 外 学 習 に つ い て	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 事前学習：毎回、講義する内容について事前にテキストのページを指定するので、入念に予習し、不明な点等を明確にしておくこと。 事後学習：講義内容に沿ってレポートや小テストを課すので、自己の学習内容について振り返り、返却されたレポート等はファイルしておくこと。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。
テ キ ス ト	最新保育講座7『保育内容 健康』河邊貴子 柴崎正行 杉原隆 編著 ミネルヴァ書房 自作の教材を適宜配布する。
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	乳幼児期の発育・発達を支えるために必要な基礎的知識をしっかりと身に付けて欲しい。
オフィスアワー	授業日の放課後 Email : skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp